

女性の社会参加を後押しするNPO法人さんかくナビ（岡山市北区岡町）が、柔らかな感触が認知症患者に安心感を与える毛糸の編み物・マフの普及を進めている。女性が編んだ作品を医療現場で活用してもらおうと、本格導入を検討している川崎医科大総合医療センター（同中山下）を会場に10月3日、初の製作体験会を開く。

岡山のNPO 来月3日に製作体験会

柔らかな感触が安心感 医療現場で活用を



患者向けのマフは、手や腕を包む防寒具をヒントにした英国発の

認知症ケアへ 編み物「マフ」

ケアアイテム。指先から腕の中ほどを覆う長さの筒状に編み、毛糸玉や柔らかい人形などの飾りを縫い込む。ぬくもりや触り心地の良さがリラックス効果を生み、物に触れると落ち着く人や視力の衰えから感覚刺激が少ない人に使われ、岡山県内

でも活用する病院があるという。さんかくナビは、同じくもりがちな高齢女性が社会とつながる活動として編み物を取り入れる中で、地域の医療に貢献して生きがいを感じてもらおう狙いでマフの製作を立案。センターが昨年の試験導入を経て本格活用を目指していることを知り、体験会の共同開催を持ちかけた。体験会は関心のある人や看護師らを対象に開く。編み方のほか、誤食の防止や衛生的な使用法といった注意点を学んでもらう。市内の公民館などでも編む会を開き、センターに寄付する計画という。

マフを編む「さんかくナビ」メンバー（前列の右から2人）と作業を見守る川崎医科大総合医療センターのスタッフ 15日

今月15日にはメンバーがセンターで作り方を披露した。院内では医師や看護師のチームが50人以上の入院患者と関わっており、「マフが増えれば多くの患者に喜んでもらえるのでは」と看護主任の植田あゆみさん（43）。さんかくナビの糸山智栄代表（62）は「誰かのために作るのは編み手の励みになる。輪を広げていきたい」と話す。体験会は午前10時から午後0時半。参加費千円。かぎ針7号を持参する。26日までにさんかくナビ（090-7131-5672）に申し込む。（地面美里）